
ノーヒットノーラン

-彼方-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノーヒットノーラン

【Nコード】

N3019J

【作者名】

- 彼方 -

【あらすじ】

9回裏。2アウトランナーなし。スコア『0-10』完全試合目前。

主人公は、現在攻撃中のチームの4番スラッガー。

第1話 物語の始まり（前書き）

B U M P O F C H I C K E Nさんの曲をまた勝手に小説化しました。

前に書いたラフ・メイカーは30分程度でしたが、これもまた1時間程度で書いたものです。

現在執筆中の小説が行き詰ったので書いてみました。

第1話 物語の始まり

物語の始まりはそう。成す術のない僕らが主役。

無数に煌めく白いライト。それが今、スポットライトにでもなったかのように感じる。全てが自分に傾いている気がした。

そして、大きな期待をかけられているのが分かる。

『頼むぜ我らがスラッガー』

同時に

『今日はどうした。未だノーヒットノーランだなんて』と、そんな声が聞こえてきそうだった。自分で言うのもおかしい話だが。

たくさんの観客。数え切れないほどの敵と味方。

その中で一番近くに座っている少年と目が合った。中学生くらいだろうか。なんとなく、そちらへ身体を向けた。

現在のスコア。9回裏、2アウトランナーなし。完全試合目前。こちらの得点は0のまま、ランナーを1人も出せずにいた。対して向こうは、回を追うごとに着々と点数を重ね、今は10点の差だ。

観客の何人が諦めているのだろうか。

時折大きな歓声がため息に変わる。いや、もはや歓声が上がることはないのかもしれない。

だがしかし、少なくとも目の前の少年だけは諦めていない。

その目を見れば分かった。僕に期待する目だ。

『打ってくれ。そして勝ってくれ』

そういう目だった。

僕は言いたかった。『もう無理だよ』と。

ただ、そんなことは言えなかった。言えるはずがない。

少年の想いは、高鳴る心の背中につかえる。それでも、『まかせろ』としか言えない。

ため息に勇気がき消されても、『まかせろ』以外の言葉が出てこない。本心とはまったく逆の言葉だ

ライトから逃げたい。この場から早く立ち去りたい。勝つなんて無理に決まってる。それにもしも打てなかったらノーヒットノーラン。完全試合だ。

分かるだろ。スラッガーだって怯えるんだ。

第2話 在り方

昔の話だ。

僕は、野球に人生をかけてたわけじゃない。

それなりに練習もして、それなりにサボりもした。

適当。その言葉が一番しっくりくるような気がする。

それがいつの間にか、期待を背負うのが当たり前で、誰かに甘えられなくなっていた。

だけど僕はスラッガーだ。ノーヒットノーランじゃ認められない。そんなのスラッガーじゃない。そんなスラッガーはいらない。

そんな僕は存在しちやいけないんだ。

叶うのなら怯える自分に逃げ場を与えてあげたい。誇れる自分と名誉とライトが欲しい。

成す術の無い状況。僕にナニガデキル？

だけど、僕はスラッガーだ。

何ができるとか、できないとかじゃない。

物語の始まりはそう。成す術の無い僕らが主役。

無数に煌めく白いライト。それが今、スポットライトにでもなったかのように感じる。全てが自分に傾いている気がした。

そして、大きな期待をかけられているのが分かる。

「頼むぜ。我らがスラッガー」

少年のそんな声に

「まかせろ」

そう言つて僕は胸を叩いて打席に向かった。

『この手よ今は震えないでくれ。この足よ。僕を支えてくれ。白いライトに怯えないように』

帽子を深くかぶり直し、不敵に笑う。

スラッガー。

普通に生きてれば、誰だつてライトを浴びる日は来る。スポーツはもちろんのこと、他にもたくさんある。

誰かに、もしくは大勢の人間に期待され、できるかできないかでは

なく、やらなくてはいけないときが必ず来る。

そんなとき、誰もが臆病になる。腰の抜けたスラッガーのように。

『失敗したら・・・』なんてことばかりが頭の中で渦巻く。

だから、みんなに知ってほしいんだ。

「まかせろ！」

その言葉がいかに強がりかを。

今日も僕は胸をたたく。期待にこたえるために。そして、それを皆に知ってほしいから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3019j/>

ノーヒットノーラン

2010年10月8日21時37分発行